

ぶどう(デラウェア)(露地、雨よけ)

2019年度

発芽 展葉 開花始 満開 落花 収穫盛
4.27 5.2 6.3 6.6 6.10 8.10

園芸試験場平年値

散布時期	適用病害虫名	散布薬剤名及び散布濃度 (薬液100ℓ当たり)		農業使用基準		10a当たり 散布量	注意事項 (収穫前日数 総使用回数)を表す	散布日 (月/日)	使用薬剤	使用 濃度
				収穫前 使用時期	総使用 回数					
休眠期		露地栽培で晩腐病が多い場合は、トップジンMペースト3倍(休眠期(萌芽前)3回以内)を結果母枝を主体に塗布する。								
3月下旬 (休眠期)	晩腐病 黒とう病 (ブドウトラカミキリ)	1. デランフロアブル	200倍(500cc)	休眠期	1回	300ℓ	1. 休眠期の防除は、必ず粗皮削りをしてから散布する。 2. 前年の房の取り残し部分及び巻ひげなどの除去は晩腐病防除に重要であるから徹底する。 3. 前年ブドウトラカミキリの秋散布を実施しない園では、この時期ラビキラー乳剤300倍(発芽前(休眠期)、2回以内)を加用する。また、周辺の訪花昆虫保護のため3月下旬までに散布を終えること。	/		
5月上旬	カスミカメ	ヨモギ等の雑草で増殖するので周辺の除草を徹底する。								
この回以降の散布は殺虫剤解禁後とする										
5月中下旬 (展葉4~5枚)	晩腐病 べと病 褐斑病 黒とう病 フタテンヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ	1. ホライズンドライフロアブル 2. アグロスリン水和剤*1	2,500倍(40g) 1,000倍(100g)	21日前まで 7日前まで	3回以内 5回以内	200ℓ	1. 前年晩腐病が発生した園地では、枝かけ具(パンシャット)を設置する。 2. ホライズンDFは他樹種に飛散させない。	/		
6月上旬 (第1回ジベ処理直後)	灰色かび病 晩腐病 べと病	1. オーシャイン水和剤 2. オーソサイド水和剤80	2,000倍(50g) 800倍(125g)	7日前まで 30日前まで	2回以内 2回以内	250ℓ		/		
6月中旬 (落花直後)	黒とう病 褐斑病 さび病 灰色かび病 べと病 フタテンヒメヨコバイ アザミウマ類 ハダニ類	1. バレード15フロアブル 2. ベトファイター顆粒水和剤 3. アーデントフロアブル*1	2,000倍(50cc) 2,000倍(50g) 2,000倍(50cc)	7日前まで 30日前まで 前日まで	2回以内 3回以内 4回以内	250ℓ	1. 晩腐病が発生する園地では果房に笠掛を行う。	/		
6月下旬 (第2回ジベ処理直後)	晩腐病 黒とう病、さび病 灰色かび病	1. ファンタジスタ顆粒水和剤	3,000倍(33.3g)	14日前まで	3回以内	300ℓ	1. 汚染防止のため、この回以降は展着剤を使用しない。また、この薬剤は散布時期が遅れる(小豆大以降)と果粉溶脱のおそれがあるので遅れないように散布する。 2. 6月下旬になると晩腐病の胞子が雨によって飛散することが多くなるのでていねいに散布する。	/		
7月上旬	黒とう病 晩腐病 褐斑病 灰色かび病 さび病 (コガネムシ類) (カイガラムシ類) (ナミハダニ)	1. オンリーワンフロアブル	2,000倍(50cc)	前日まで	3回以内	250ℓ	1. とび玉が入る迄に散布する。収穫は散布後の日数に注意する。 2. さび病、べと病、褐斑病の多発する園では7月上、中、下旬の3回下記薬剤を棚上散布する。雨が多い場合は引き続き8月上旬まで棚上散布する。 棚上散布薬剤(100ℓ当たり薬量) 散布量 Zボルドー 500倍(200g) 300ℓ 3. コガネムシ類成虫、カイガラムシ類の発生した園ではモスピラン顆粒水溶剤2,000倍(14日前まで、3回以内)を散布する。 4. ハダニの発生が見られる園では、コロマイト水和剤2,000倍(7日前まで、2回以内)を加用する。	/		
収穫直後	べと病 コガネムシ類成虫 フタテンヒメヨコバイ ブドウトラカミキリ	1. ICボルドー66D 2. スミチオン水和剤40	25倍(4kg) 1,000倍(100g)	- 90日前まで	- (収穫終了後から萌芽までは2回以内)	250ℓ	1. キクイムシは樹勢が弱ると多くなるので樹勢維持に注意する。なお、発生が見られた園では、見つけ次第捕殺する。 2. 他樹種に飛散させない。 3. スミチオン水和剤40は収穫前日数が長いので、収穫前の大粒種へ飛散させない。	/		
状況9月上~中旬	べと病	1. ICボルドー66D	25倍(4kg)	-	-	250ℓ	1. 降雨が続く場合散布する。	/		
11月中旬	ブドウトラカミキリ	1. ラビキラー乳剤	300倍(333cc)	発芽前(休眠期)	2回以内	300ℓ	1. 幼虫期をねらって結果枝に十分散布する。隣接して収穫前のりんごがある園では、りんごの収穫後に散布する。	/		

収穫前使用時期で「前日」とは24時間前である。
ハウスや雨よけ栽培では暦日でなく生育に合わせて散布する。

*使用時期や有効成分によって、使用回数が異なる場合は総使用回数欄を()で示した。

※1 合成ピレスロイド剤は蚕毒・魚毒が強いため、桑園・養魚池、河川などの近くでは絶対に使用しない。